

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	東敏雄教授・年譜・著作目録 (東敏雄教授退官記念特集号)
Author(s)	
Citation	茨城大学政経学会雑誌(67): 71-80
Issue Date	1998-03
URL	http://hdl.handle.net/10109/9593
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

東 敏 雄 教 授 年 譜

- 1932年 5月 千葉県千葉市稲毛で父東亦寿、母はなの次男として生まれる。この年5月15日、5・15事件。このあと埼玉県川口市、横浜市磯子区金沢八景等に住む。
- 1939年 4月 埼玉県入間郡高萩村立高萩尋常高等小学校尋常科入学。この前年、父亦寿が同村（無医村）に設立の県立診療所に医師として赴任。
- 1941年 1月 国民学校令により、埼玉県入間郡高萩村立高萩国民学校初等科と改称、この年12月8日太平洋戦争勃発。
- 1945年 3月 埼玉県入間郡高萩村立高萩国民学校初等科修了。
- 1945年 4月 埼玉県立川越中学校（旧制）入学。この年8月15日敗戦。
- 1947年 4月 新学制による小学校および中学校発足、埼玉県立川越中学校（旧制）内に新学制の併設中学校第2、第3学年設置。これに伴って併設中学校第3学年となる。
- 1948年 3月 埼玉県立川越中学校（旧制）併設中学校卒業。
- 1948年 4月 埼玉県立川越高等学校創立。同高等学校に入学。これに伴って同高等学校第10年生となる。
- 1951年 3月 埼玉県立川越高等学校卒業。
- 1951年 4月 東北大学経済学部経済学科入学。
- 1956年 3月 東北大学経済学部経済学科卒業。
- 1956年 4月 東北大学大学院経済学研究科修士課程（経済学専攻）入学。
- 1958年 3月 東北大学大学院経済学研究科修士課程（経済学専攻）修了（経済学修士）。
- 1958年 4月 東北大学大学院経済学研究科博士課程（経済学専攻）入学。
- 1961年 3月 東北大学大学院経済学研究科博士課程（経済学専攻）単位取得満期退学。
- 1961年 4月 文部教官、茨城大学助手に採用、文理学部政経学科に所属。
- 1962年 4月 茨城大学講師に昇任、文理学部政経学科に所属。
- 1963年 4月 茨城大学文理学部政経学科が経済学科と名称変更、経済学科に所属。
- 1964年10年 茨城大学助教授に昇任、文理学部経済学科に所属。
- 1964年11月 茨城県史編さん専門委員に委嘱（1977年2月まで）。
- 1966年 4月 茨城大学中央補導委員会委員。この年、茨城大学生協同組合の設立を巡る学内対立のため中央補導委員多難。
- 1967年 3月 経済学博士（旧制）授与（東北大学）。
- 1967年 6月 茨城大学文理学部の人文学部、理学部、教養部への改組に伴い人文学部へ配置転換。経済学科に所属。
- 1967年 6月 茨城大学人文学部人文図書室運営委員（委員長）。1962年以來の政経学科・経済学科の実践を踏まえ学部施設として人文図書室を創設。以後、委員長を歴任。
- 1969年12月 人文学部委員として堀越孝一氏と共に茨城大学学生会館改革委員（副委員長）に就任（1970年2月18日まで）。1969年11月学長に選出された関誠一氏を補佐。この年3月茨苑会館、6月教養部棟封鎖占拠。関学長は在任中病を得て1972年に逝去。
- 1970年 8月 勝田市史編さん委員（幹事）に委嘱（1983年3月31日まで）。
- 1973年 6月 茨城大学教授に昇任、人文学部経済学科所属。
- 1973年 9月 いわゆる「木下問題」についての人文学部教授会特設4人委員会委員に選出。このと

- 1974年12月 社会人文学部は鹿島第二期工業用水建設のための用地強制収用を巡る事件の渦中に。社会科学科カリキュラム委員会委員（委員長）。1975年4月発足予定の社会科学科カリキュラムの仕上げを担当。
- 1975年4月 茨城大学人文学部経済学科が社会科学科と名称変更。これに伴い社会科学科に所属。
- 1975年8月 茨城大学総務に就任。茨城大学将来計画について学長市村正二氏を補佐。
- 1976年3月 茨城大学附属図書館長併任（1978年2月まで）。附属図書館長は学長を補佐し全学将来計画委員会運営の任に当る。
- 茨城大学評議員併任（1978年2月まで）。
- 1978年 この年10月、秋田康一氏学長に就任、総務としてキャンパス統合について学長を補佐。統合実現せず秋田学長辞職。
- 1979年4月 茨城大学評議員併任（1981年3月まで）。
- 1980年3月 茨城県史編さん市町村史部会代表に委嘱、『茨城県史 市町村編』の編さんに従事（1983年3月まで）。
- 1983年6月 勝田市史編さん企画委員（幹事）に委嘱（1994年10月31日まで）。
- 1985年4月 人文学部教育実習委員会委員（委員長）。このとき教育実習制度の改革に取組み、協校方式から帰省実習制度への転換に努力。
- 1986年4月 人文学部社会科学科議長。この年度末、ゼミナール選択をめぐって学生のハンストに直面、教務委員に協力して少人数教育制度を固守。
- 1986年4月 ひたちなか市博物館建設委員会委員に委嘱（現在に至る）。
- 1988年11月 牛久市史編さん専門委員に委嘱（現在に至る）。
- 1990年11月 茨城大学人文学部長併任（1994年11月まで）。学部長就任当日、茨城大学将来計画委員会発足。第1分科会委員（委員長）就任。大学設置基準の大綱化にはじまる大学改革開始。
- 1993年4月 茨城大学大学院人文科学研究科長併任（1994年11月まで）。大学院人文科学研究科に地域政策専攻新設。
- 1998年3月 茨城大学を定年により退官。

東 敏 雄 教 授 著 作 目 録

I 著 書	書 名	発 行 所	発行年
1	北上川—産業開発と社会変動— (分担執筆)	東京大学出版会	1960
2	茨城県農業史 第1巻 (共著)	茨城県農業史編さん会	1963
3	原子力開発と地域社会の関連 (共著)	茨城県	1964
4	茨城県史料 近代統計編 (共編著)	茨城県	1967
5	茨城県史 市町村編 I (分担執筆)	茨城県	1968
6	茨城県農業史 第3巻 (共著)	茨城県農業史編さん会	1968
7	資本主義の農業問題 (分担執筆)	日本評論社	1970
8	経済学講要 (共編著)	国際企画出版部	1974
9	茨城県たばこ史 (共著)	茨城県たばこ耕作組合連合会	1974
10	茨城県史 市町村編 II (分担執筆)	茨城県	1975
11	過疎の実証分析—東日本と西日本の比較研究— (分担執筆)	法政大学出版局	1976
12	常陸の歴史 (分担執筆)	講談社	1977
13	聞きがたり勝田の生活史 I (編著)	勝田市	1978
14	勝田市史 近代・現代編 I (分担執筆)	勝田市	1979
15	体系経済学 (共編著)	現代史研究所出版局	1979
16	聞きがたり勝田の生活史 II (編著)	勝田市	1980
17	勝田市史 近代・現代編 II (分担執筆)	勝田市	1981
18	茨城県史 市町村編 III (分担執筆)	茨城県	1981
19	勝田市の歴史 (分担執筆)	勝田市	1982
20	聞きがたり勝田の生活史 III (編著)	勝田市	1982
21	聞きがたり勝田の生活史 IV (編著)	勝田市	1983
22	百里原農民の昭和史—茨城百里の人びと— (編著)	三省堂	1984
23	写真集 勝田の歴史 (共著)	勝田市	1985
24	新編体系経済学 (共編著)	現代史研究所出版局	1986
25	勤労農民的経営と国家主義運動 —昭和初期農本主義の社会的基盤— (単著)	御茶の水書房	1987
26	近代日本社会発展史論 (共編著)	ぺりかん社	1988
27	叢書・聞きがたり農村史 I 大正から昭和初年の農民像 (編著)	御茶の水書房	1989
28	叢書・聞きがたり農村史 II 女性の仕事と生活の農村史 (編著)	御茶の水書房	1989
29	叢書・聞きがたり農村史 III 村の指導者とインテリたち (編著)	御茶の水書房	1990
30	響鐘—あるゼミナールの大学史— (編著)	大学史料出版会	1997
31	牛久市史料 近代 II (共編著)	牛久市	1997

32 親父の帽子（単著） 大学史料出版会 1998

II 論文

- | 論文題名 | 掲載誌名 | 発行年 |
|--|--------------------------------|------|
| 1 19世紀第4四半期におけるドイツ穀物関税の研究（単著）〔修士論文（東北大学）〕 | | 1957 |
| 2 19世紀8・90年代におけるドイツ農業労働者の性格（単著） | 東北大学経済学会「研究年報経済学」第21巻1号通巻53号 | 1959 |
| 3 ドイツにおける中小農創設政策の展開—19世紀80年代より第1次大戦までのいわゆる内地植民政策の実態（単著）— | 東北大学経済学会「研究年報経済学」第23巻1号通巻60号 | 1961 |
| 4 明治期茨城県農業の地帯区分に関する検討（単著） | 茨城県農業史編さん会「農業史資料」第11号 | 1962 |
| 5 明治後期農政資料（2）—「茨城県戦時状況一斑」抜粋— | 茨城県農業史編さん会「農業史資料」第12号 | 1962 |
| 6 昭和期農政資料（1）—農林関係県政要綱— | 茨城県農業史編さん会「農業史資料」第18号 | 1964 |
| 7 東部ドイツ農業労働者の性格—19世紀末から20世紀初頭にかけての分析—（単著） | 茨城大学政経学会「茨城大学政経学会雑誌」第14・15号合併号 | 1964 |
| 8 東部ドイツ農業における出稼労働者問題（1）—19世紀末から20世紀初頭にかけての実態—（単著） | 茨城大学文理学部「茨城大学文理学部紀要（社会科学）」第15号 | 1964 |
| 9 19世紀末ドイツ農業労働者問題序章（単著） | 茨城大学文理学部「茨城大学文理学部紀要（社会科学）」第16号 | 1965 |
| 10 明治後期茨城県農業における地帯区分試論（単著） | 茨城県史編さん委員会「茨城県史研究」第5号 | 1966 |
| 11 19世紀末ドイツ農業労働者の研究（単著）〔博士論文（東北大学）〕 | | 1967 |
| 12 三反歩零細経営と農業離脱—離農・準離農層の研究（1）—（単著） | 茨城大学政経学会「茨城大学政経学会雑誌」第20号 | 1967 |
| 13 戦前における農家労働力と労働市場—離農・準離農層の研究（2）—（共著） | 茨城大学政経学会「茨城大学政経学会雑誌」第22号 | 1968 |
| 14 農業生産力担当層における就業構造と農家経済—離農・準離農層の研究（4）—（共著） | 東北大学経済学会「研究年報経済学」第30巻2号通巻89号 | 1969 |
| 15 相対請負耕作および新小作関係と農家労働力—離農・準離農層の研究（5）—（共著） | 茨城大学政経学会「茨城大学政経学会雑誌」第24号 | 1969 |
| 16 農村をめぐる労働市場環境の変化と農家の就業構造—茨城県下人口減少町村に事例を求めて—
（単著） | 茨城県史編さん委員会「茨城県史研究」第14号 | 1969 |
| 17 転換期における農家経済と農家就業構造—日本農業の労働力基盤研究（7）—（単著） | 茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要（社会科学）」第3号 | 1969 |
| 18 独占資本の形成と小農的過剰人口—日本農業の労働力基盤研究—（単著） | 村落社会研究会『村落社会研究』第6集，塙書房 | 1970 |

- 19 農業問題と中小零細企業の存立基盤—日本農業の労働基盤研究(9)—(単著)
東北大学経済学会「研究年報経済学」第33巻1号通巻100号 1970
- 20 水稲単作地帯における農村・農家労働力の動向—日本農業の労働力基盤研究(10)—(単著)
茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要(社会科学)」第5号 1971
- 21 茨城県下一山村にみる過疎問題(単著)
茨城県史編さん委員会「茨城県史研究」第25号 1973
- 22 現段階日本資本主義における小農民経営と村落(単著)
村落社会研究会【村落社会研究】第10集, 塙書房 1974
- 23 勤労農民的経営の形成と明治末, 大正期における村長像(単著)
東北大学経済学会「研究年報経済学」第36巻4号通巻115号 1975
- 24 非典型地帯と大正期の勤労農民的経営(単著)
茨城県史編さん委員会「茨城県史研究」第35号 1976
- 25 戦後・町村合併前における公有林地帯の村落組織—高度経済成長と公有林地帯の山村経済(1)—
茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要(社会科学)」第13号 1977
- 26 「大正デモクラシー」期における農民経営の歴史的な性格(単著)
村落社会研究会【村落社会研究】第18集, 御茶の水書房 1982
- 27 農本主義と「大正デモクラシー」の地域的展開(共著)
茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要(社会科学)」第16号 1983
- 28 農村改良劇「栄ゆく村」とある農民(単著)
大子町史編さん委員会「大子町史研究」第12号 1984
- 29 茨城の漁業と「大正デモクラシー」の地域的展開(その1)(単著)
茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要(社会科学)」第17号 1984
- 30 茨城の漁業と「大正デモクラシー」の地域的展開(その2)(単著)
茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要(社会科学)」第18号 1985
- 31 村落, 行政村と町村長(単著)
関城町史編さん委員会「関城町の歴史」第5号 1985
- 32 茨城の初等教育—「大正デモクラシー」の地域的展開—(単著)
茨城大学政経学会「茨城大学政経学会雑誌」第49号 1985
- 33 高度成長期における公有林地帯の部落組織—高度経済成長と公有林地帯の山村経済(2)—(単著)
茨城大学人文学部「茨城大学人文学部紀要(社会科学)」第19号 1986
- 34 大正期茨城地域社会論序章(単著)
茨城県立歴史館「茨城県史研究」第58号 1987
- 35 集团的土地所有をめぐる(共著)
村落社会研究会【村落社会研究】第24集, 御茶の水書房 1988
- 36 歴史資料としての聞きがたり(単著)
歴史科学協議会「歴史評論」495号 1991
- 37 勤労農民的経営と地域社会(単著)
東北大学経済学会「研究年報経済学」第53巻4号通巻186号 1992
- 38 畑作農業の展開と地域農村の諸相—【奥野村村是】を読む—(単著)
牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第3号 1993

- 39 日誌にみる大正期牛久の世相 (単著)
牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第5号 1995
- 40 大正・昭和初期における勤労農民的経営と女性 (単著)
日本村落研究学会『家族農業経営における女性の自立』, 農山漁村文化協会 1995
- 41 牛久市域における「大正ノ農民」像—吉川開『宅地改良之実際』を読む— (単著)
牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第6号 1996
- 42 牛久藩士による「牛久組開墾」顛末 (共著)
牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第7号 1998
- Ⅲ 聞きがたり
- | 聞きがたりの題名 | 掲 載 誌 名 (聞 き 手) | 発行年 |
|---|--|------|
| 1 インタビュー・幡谷仙三郎 (1) (幡谷仙三郎, 1893年生) | 茨城県郷土史の会「県民の生活を記録する運動ニュース」第7号
(聞き手, 東ほか相沢一正) | 1976 |
| インタビュー・幡谷仙三郎 (2) (幡谷仙三郎, 1893年生) | 茨城県郷土史の会「県民の生活を記録する運動ニュース」第8号
(聞き手, 東ほか相沢一正) | 1977 |
| 2 甘田入干拓について (竿代武, 1907年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第1号
(聞き手, 東ほか斎藤典生) | 1977 |
| 3 小川商人と百里基地 (宮内久介, 1895年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第2号
(聞き手, 東ほか相沢一正, 斎藤典生) | 1978 |
| 4 [聞きがたり勝田の生活史 I (編著)] (著書の項に掲出) | | 1978 |
| 5 利根川沿い, 鶏卵と小商いの半生 (川崎覚之介, 1880年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第5号
(聞き手, 東ほか桜庭宏, 桜井明) | 1979 |
| 利根川沿い, 鶏卵と小商いの半生 (続) (川崎覚之介, 1880年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第6号
(聞き手, 東ほか桜庭宏, 桜井明) | 1979 |
| 6 血盟団事件のころ (大内春吉, 1916年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第8号
(聞き手, 東ほか山下直登, 相沢一正) | 1980 |
| 7 飯場経営と坑夫の生活 (小森忠義, 1910年生, とめ, 1913年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第8号
(聞き手, 東ほか柳橋政義, 相沢一正) | 1980 |
| 8 炭鉱の社会と坑夫の生活 (石和豪傑, 1910年生) | 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第8号
(聞き手, 東ほか柳橋政義, 相沢一正) | 1980 |

- 9 [聞きがたり勝田の生活史 II (編著)] (著書の項に掲出) 1981
- 10 新しい教育を求めて (石川理平次, 1910年生)
 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第14号
 (聞き手, 東ほか桜庭宏, 斎藤典生, 桜井明) 1982
- 11 [聞きがたり勝田の生活史 III (編著)] (著書の項に掲出) 1982
- 12 [聞きがたり勝田の生活史 IV (編著)] (著書の項に掲出) 1983
- 13 大正期の坑夫と職員 (海老名字八, 1895年生)
 県民の生活を記録する委員会「県民の生活聞き書き集」第20号
 (聞き手, 東ほか斎藤典生, 柳橋政義, 池田都実康) 1984
- 14 [叢書・聞きがたり農村史 I 大正から昭和初年の農民像 (編著)] (著書の項に掲出) 1989
- 15 [叢書・聞きがたり農村史 II 女性の仕事と生活の農民史 (編著)] (著書の項に掲出) 1989
- 16 [叢書・聞きがたり農村史 III 村の指導者とインテリたち (編著)] (著書の項に掲出) 1990
- 17 思い出の明治大正時代 (本橋義一, 1898年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」創刊号 1991
- 18 奉公で明け暮れた十代の日々 (片山きよ, 1909年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」創刊号 1991
- 19 農学校のことなど (小沢清, 1903年生, 本橋清一, 1906年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」創刊号 1991
- 20 勉強に憧れた牛久の少女 (福元チイ, 1908年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第2号 1992
- 21 薄井己亥の半生 (薄井己亥, 1899年生), 先崎千尋編「聞き書き薄井己亥の半生」
 (聞き手, 東ほか先崎千尋, 斎藤典生) 1992
- 22 昭和初期・村の生活, 坪の生活 (本橋正二, 1916年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第3号 1993
- 23 大正14年, 修養団に参加して (倉嶋長司, 1903年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第4号 1994
- 24 大正3年, 日記をつけ始めた女化の農民 (本城重定, 1900年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第4号 1994
- 25 父の製糸所から浮島丸まで (富山栄一, 1921年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第5号 1995
- 26 小野川沿い, 田んぼ, いま昔 (町田輝雄, 1922年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第5号
 (聞き手, 東ほか細谷昂) 1995
- 27 城中, 昭和の生活史 (関口鉄夫, 1926年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第6号 1996
- 28 下町, 専業農家の昭和史 (倉持誠一, 1914年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第6号 1996
- 29 体験教育, 高橋熙校長時代の小学生 (橋場秀正, 1912年生)
 牛久市史編さん委員会「牛久市史研究」第7号 1998

IV その他

題名	掲載誌名	発行年・月・日
1 響鐘	ゼミナール誌「響鐘」創刊号	1967
2 学生の研究活動	ゼミナール誌「響鐘」第2号	1968
3 県史のつくり出すもの	茨城県史編さん委員会「茨城県史料付録2」	1968・3
4 農業改良普及事業における部落のとらえ方（共著）	茨城県農林水産部教育普及課発行	1968・3
5 あたらしい研究室のこと	茨城大学学生部「学生広報特集第21」	1968・7・1
6 山村二題	茨城県史編さん委員会「茨城県史研究」第12号	1968・11
7 人文学部だより	茨城大学学生部「学生広報特集第23」	1968・12・20
8 大学入試のなかで	週刊「てんおん」水戸風土誌 第744号	1969・4・6
9 地域のなかの学習活動	同時代社「同時代テスト版」	1969・10
10 地方の大学のなかで	ゼミナール誌「響鐘」第3号	1969
11 国勢調査の結果を待つ楽しみ	茨城県統計課「統計茨城」第200号、1970年10月号	1970・10・10
12 この一年	ゼミナール誌「響鐘」第4号	1970
13 ゼミナールの人たち	ゼミナール誌「響鐘」第5号	1971
14 地方自治体と現代史料	茨城県史編さん委員会「茨城県史料付録8」	1971・3
15 【水農史】第1巻を読んで	「いはらき」新聞	1971・6・9
16 戦前葉たばこ生産の一側面	茨城県郷土史の会「会報」第3号	1972・3
17 たてまえからの脱却	ゼミナール誌「響鐘」第6号	1972
18 日の丸	ゼミナール誌「響鐘」第7号	1973
19 二つの農村	【茨城県農業史 第8巻】付録	1973・3・30
20 農村青少年への提言	「農業茨城」第25巻10月号	1973
21 聞き取りと私（講演録）	茨城県市町村史編さん連絡協議会報「うばら」創刊号	1974・3・1
22 ゼミナールを考える	ゼミナール誌「響鐘」第8号	1974
23 【近代化】論の旋回と克服（書評・金原左門著【「日本近代化」論の歴史像】）	「月刊東風」第38号	1975・5・24
24 （書評）芳賀登著【明治国家と民衆】	歴史学研究会「歴史学研究」第421号	1975・6
25 自らの課題の発見を	茨城大学広報誌編集委員会「学園だより」第29号	1976・4
26 （書評）牛山敬二【農民層分解の構造－戦前期－】、田代洋一・宇野忠義・宇佐美繁【農民層分解の構造－戦後現段階－】		

- 歴史学研究会「歴史学研究」第436号 1976・9
- 27 線香をあげる ゼミナール誌「響鐘」第9号 1976
- 28 聞き歩きの記事 「常陽新聞」 1976・11・8
- 29 茨城大学将来計画ABC
茨城大学広報誌編集委員会「学園だより」第30・31合併号 1976・12
- 30 自由を求めて 茨城大学広報誌編集委員会「学園だより」第32号 1977・4
- 31 茨城大学将来計画この一年(1)(2)
茨城大学広報委員会「茨城大学学生新聞」 1977・5・25
および6・25
- 32 岐路に立つ茨城大学 ゼミナール誌「響鐘」第10号 1977
- 33 市井の読書人育てよ 「いはらき」新聞 1978・8・11
- 34 手強い相手 茨城県立東海高等学校PTA「会報」第4号 1979・3・15
- 35 聞きがたり由来 勝田市史編さん委員会「勝田市史 近代・現代編Ⅰ付録」 1979・11
- 36 筐底の一文 ゼミナール誌「響鐘」第11号 1979
- 37 情報不足と認識不足 東北大学経済学部同窓会「経和会々報」第13号 1980・3・15
- 38 ある、でんわ、から 勝田市史編さん委員会「勝田市史 近代・現代編Ⅱ付録」 1981・3
- 39 座談会【市町村編Ⅲ】の刊行にあたって
茨城県史市町村部会【茨城県史 市町村編Ⅲ】付録 1981・9・30
- 40 「ズレた教師」は、おおいに結構
「茨城大学教職員組合新聞」第62号 1981・11・7
- 41 植民地はいやだ ゼミナール誌「響鐘」第12号 1983
- 42 人文学部あれこれ 茨城大学広報誌編集委員会「学園だより」第52号 1983・6・15
- 43 草創期人文図書室 茨城大学人文図書室「図書室だより」創刊号 1984・6
- 44 人文学部校舎の外壁―蘇れ緑映えよ太陽―
茨城大学広報誌編集委員会「学園だより」第120号 1984・10・31
- 45 近況 ゼミナール誌「響鐘」第13号 1986
- 46 若草とわたし 川井麻子編【若草ものがたり】 1987
- 47 老人問題は、今 ゼミナール誌「響鐘」第14号 1988・3
- 48 住民の顔が見える町史
関城町史編さん委員会「関城町史だより」第24号 1988・3・31
- 49 “周辺”から【歴史幻想】を撃つ書評・金原左門【地域をなぜ問いつづけるか】
中央大学出版部, 1988
「中央評論」第183号, 中央大学出版部 1988
- 50 研究会はおもしろい 「蹤跡と黙考」資本論研究会第150回記念 1988・5・21
- 51 木戸田教授の近現代史研究の周辺
「茨城大学政経学会雑誌」第55号 1988
- 52 歩く ふるさとを歩こう会々誌「ふるさと」第8号 1989・1
- 53 足許を見つめて 牛久市総務部秘書広聴課「広報うしく」第518号 1989・4・1
- 54 桜井武雄「記念講演 服部史学と親鸞研究―【木戸田四郎教授退官記念論文集】に寄せて」

における岩本論文批判について

- 茨城の近代を考える会「茨城近代史研究」第5号 1990・1
- 55 文理・人文学部同窓会の発展を期待して
【茨城大学文理・人文学部同窓会会員名簿】 1991・6・14
- 56 池田金左衛門義信のこと
牛久市総務部秘書広聴課「広報うしく」第576号 1991・9・1
- 57 一通の手紙 「茨城大学文理・人文学部同窓会々報」第9号 1992・1
- 58 【加古川市史 第6巻上】を読んで
【加古川市史 第6巻下】付録 1992・6
- 59 社会史と大江さん 「茨城大学政経学会雑誌」第61号 1993
- 60 あの日あの頃 川越高等学校第三期生・還暦の文集【おーい楠よ】 1994・3・10
- 61 市町村編おさめうた余録
埴作楽さんを偲ぶ会【追悼 埴作楽さんを語る】 1994・9・15
- 62 (書評) 清水みゆき【近代日本の反公害運動史論】、日本経済評論社(1995)
日本村落研究学会【村落社会研究】第4号 1996
- 63 人と出合って 「茨城大学附属図書館報」第5号 1997